



地方で実現する自分らしい生き方 ～一関市キャリア教育シンポジウム～

1月30日（金）藤沢文化センターにて一関市キャリア教育シンポジウムが開催されました。この催しは生徒が社会体験学習の成果と課題を振り返るとともに、地域住民の皆さんと改めてキャリア教育の意義や必要性について理解を深めることを目的としています。今年度は藤沢町開催ということで、社会体験学習を行った2年生が川崎中・室根中の2年生と参加しました。

最初に(株)門崎代表取締役社長の千葉祐土さんの講演が行われ、その後に弥栄小学校の実践発表、最後に「地方で実現する自分らしい生き方・働き方」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは本校を代表して佐川叶斗さんがパネリストとして参加し、社会体験学習で学んだことや、将来の夢を実現するためにどんなことをすべきかなど、意見を述べました。

生徒たちが今回の催しをきっかけに自分の夢や目標を持ち、実現に向けての第一歩を歩み始めてくれることを期待しています。

- 1 人口減少によって競争相手が減るために、今の54歳よりも14歳の方が成功の可能性が圧倒的にある。
- 2 情報技術の発達によって、現在は中央と地方の情報格差はほとんどなく、むしろ地方でしか得られない「ものすごいリアル」の体験(家でつくったものを食べる…など)が武器になる。
- 3 自分で直接つかんだ情報(一次的情報)を大事にしよう。SNSなどで誰かが流した情報に支配され、直感的な感性を壊されることがないように。
- 4 夢、目標を持ち、口にして、行動しよう。またその夢を信じ、応援してくれる人と時間を共有することを大事にしよう。

～「肉おじさん」こと千葉祐土さんの講演より～



社会体験学習では仕事にはやりがいがあると感じた。

政治に興味があるので、将来は公務員になってみんなのために働きたい。

佐川叶斗さん

中学生の頃にアナウンサーになりたいという夢をもって努力した。

中学生の皆さんも夢をもったらそこから「逆算」して、今何ができるかを考えて行動を起こして欲しい。

いちのせきケーブルネットワーク
局次長兼制作部部长

大沼佐樹子さん

中学生の頃になりたい職業が決まっていたわけではないが、小さい頃から絵や昔の文化が好きだという「軸」があった。

中学生の皆さんもそういう何か好きなものを探して欲しい

一関市地域おこし協力隊
佐藤萌香さん

(神奈川から移住し、東山和紙の制作に取り組む)



みんな「いいね」!

藤沢町いいね大賞表彰 一関市児童生徒学生顕彰

2月1日(日)藤沢町いいね大賞表彰式が、7日(土)には一関市児童生徒学生顕彰式が行われました。ともにスポーツや文芸などの分野で顕著な成績を収めた個人・団体の日頃の努力を称えるものです。生徒たちは立派な態度で参加しました。

生徒たちの活躍を地域の皆様にとって頂くとともに、生徒たち自身が地域の一員であり、応援して頂いていることを自覚する良い機会となりました。

藤沢町いいね大賞 (敬称略)

熊谷洋人(一関地方新人大会サッカー競技優勝 ※千厩FC)
千葉愛叶(リトルリーグ・ソフトボールワールドシリーズ出場等)
橋本涼香(JA共済児童生徒作品コンクール交通安全ポスターの部金賞)
三浦恵蓮(県通信陸上一関地区予選会 低学年女子リレー4×100m1位)
山内希夏(県通信陸上一関地区予選会 低学年女子リレー4×100m1位)
千葉 桜(県通信陸上一関地区予選会 低学年女子リレー4×100m1位)等
三浦愛鈴(県通信陸上一関地区予選会 低学年女子リレー4×100m1位)
佐川悠聖(一関地方新人大会バレーボール競技優勝)※いわいクラブファイターズ
佐々木蓮(歯科保健図画ポスターコンクール金賞)
小野寺桜菜(人権作文コンテスト岩手県大会奨励賞)
高橋莉穂(地域安全ポスターコンクール金賞)
渡部愛莉(青少年読書感想文岩手県コンクール 岩手県県教育長賞)
稲葉翔吾(U-15プログラミング一関大会競技部門優勝)
大住勝太郎(県通信陸上一関地区予選会 共通男子400m1位)
遠藤彩姫(岩手県年金ポスターコンクール優秀賞)
山口朋花(小中学生による「美しい豊かな農村」絵画コンクール金賞)
藤沢中学校ソフトボール部(一関地方中学校総合体育大会優勝 等)

一関市児童生徒学生顕彰 (敬称略)

千葉愛叶(アジア太平洋中東リトルリーグ・ソフトボール選手権大会優勝)



人生、勉強です! ~なぜ学ばなければならないのか

先日の全校朝会で、学校で学ぶ意義について、以下のような講話をいたしました。

A1が発達して、東大に入れるレベルとなり、悩みごとの相談相手としてもその地位を上げている。そんな現在でも、人間の頭で考え、判断しなければならないことがある。

実際に私(校長)がA1に聞いてみた。「今手元に100万円あるが、どう使えばいいだろうか?」と。これに対しA1は、①株式を買うなどの資産運用②資格を取ったり身体を鍛えたりする自己投資③旅行に行くなどして心の安定のためにつかう…など、多くの選択肢を示してくれたが、結局答えはわからなかった。もっとA1が発達すれば、確実に100万円を増やす方法も答えてくれるようになるではあろうが、金銭的に豊かになればそれで幸せか、ということそうではないだろう。ちなみにこのときA1に「どうしたら幸せになれるか?」と聞いたら、金銭的なことは1つも出てこなかった。

結局最後はそれまでの人生経験で培われた価値観に基づいて、自分の頭で考えて、判断しなければならない。そのためのトレーニングが学校で行っている勉強である。机に向かってるときだけではない。学校で友達や先生と話しているとき、人間関係で悩むとき…すべてが勉強である。答えは1つだけとは限らない。みんなで見つけて欲しい。そういうことのできる学校をみんなで作ろう。

朝会では時間の関係で講話はここまででした。本当はこの後に、社会人になって仕事をするようになって、その中に誇りややりがいを見つけていくためには勉強が必要、という話もしたかったのですが…。

諸外国の中で日本は社会人になってから「社外学習・自己啓発」をしない(つまり、勉強しない)国としてダントツの1位だそうです(ちなみにオンラインアプリやゲームで課金した金額もダントツの1位)。我々大人が、自身でもう少し学ぶ姿(読書など…)を子どもたちに見せてやる必要があると思います。